

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		福島区障がい者相談支援センター				変更又は改善内容			
0 相談支援事業所の概要		平成28年度				平成29年度			
0-1 実施状況について									
事業所名	法人名称	社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会							
	法人所在地	大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センターB1F							
	事業所名称	指定相談支援事業所 福島育成園							
	事業所所在地	大阪市福島区海老江1丁目8-8 福島育成園内							
	電話番号	06-6456-4107							
	実施曜日	月～金							
	実施時間	9:00～17:45							
同一場所で実施しているその他の事業	施設入所支援・生活介護 短期入所・共同生活援助・日中一時支援								
実施法人で実施しているその他の事業	就労移行支援、就労継続支援B型、共同生活援助、日中一時支援 居宅介護、移動支援、障がい者就業・生活支援センター、相談支援								
事業所の特長	知的障がい者へのサービスが中心ではあるが、法人内において多数の事業を実施しているため、サービスの利用につなげたり、それぞれの事業の立場からの意見を聞いたり、専門的な助言を受けたりしやすい。								
0-2 事務室等について		平成28年度				平成29年度			
事務室	事務室	53㎡	<input type="checkbox"/> 専用	<input checked="" type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	相談室	4㎡	<input type="checkbox"/> 専用	<input checked="" type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
	その他		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		<input type="checkbox"/> 専用	<input type="checkbox"/> 共用		
0-3 職員の状況		平成28年度				平成29年度			
		常勤職員		非常勤職員		常勤職員		非常勤職員	
		専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務	専任	兼務
		1人			1人	2人			
0-4 職員の勤務体制		平成28年度				平成29年度			
		常勤 1名 非常勤 1名 月曜日～金曜日（土日祝除く） 午前9時～午後5時45分 時間外や休日に入る電話は留守番電話・携帯電話にて対応。担当者不在時には、福島育成園の職員で対応。				常勤2名 月曜日～金曜日（土日祝除く） 午前9時～午後5時45分 時間外や休日に入る電話は留守番電話・携帯電話にて対応。担当者不在時には、福島育成園の職員で対応。			
0-5 ヒアカウンセリングの実施状況		平成28年度				平成29年度			
		障がい名	実施曜日	実施時間		障がい名	実施曜日	実施時間	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

資料3-1

事業所名	福島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
1 事業運営全般	平成28年度	平成29年度
1-0 理念・基本方針	<p>障がい児や障がい者およびその家族がひとりで悩みを抱える事のないよう、それぞれの思いを丁寧に聞き取り、解決に向けての情報提供等を行います。また、ご本人自身が自分の暮らしを具体的にイメージし、希望を持った生活が送れるようご本人に寄り添って、一緒に考え支援します。</p> <p>ご本人が望む暮らしに必要なサービスをコーディネートできるよう、区役所を始めとする各関係機関と連携・協力を図り、フォーマル・インフォーマルに関わらない社会資源の把握・活用に努めます。</p>	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

資料3-1

事業所名		福島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-1 運営体制		平成28年度		平成29年度	
1-1-① 事業運営の評価		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
事業の理念・基本方針を実現するための具体的な取り組みを示すものとして、委託期間全体を通じた計画が定められている。	4	委託期間全体の計画を立てている。	4	4	次期3か年の受託が決定したので、基幹相談支援センターとしての役割を確認し、計画作成していく。
		来期（平成29年度まで）の受託が決定したので、来期中長期計画を作成したい。			
委託期間全体を通じた計画を踏まえて年度ごとの事業計画を策定している。	4	相談支援事業所連絡会を立ち上げ、連携を深めるとともに、計画相談事業所と区センターの役割分担ができるように努めた。	4	4	年度ごとの事業報告や事業計画を作成している。作成したものは、法人の理事会にて承認を受けている。
		相談支援事業所が増えつつあるので、相談支援事業所連絡会の立ち上げや、既存の部会の再編等を検討したい。			
事業の評価の結果は、次期計画に反映している。	4	実施できたものはより良いものに、できなかったものは次年度以降の計画として位置づけられるように努めている。	4	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名	福島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2 適切な相談支援の実施	平成28年度		平成29年度	
1-2-① 自己決定の尊重	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
必要な情報を理解できるように提供するとともに、体験、経験する機会を設けるなど利用者が主体的に自己決定するための条件整備に努めている。	5	障がいの特性に応じて情報提供の方法を変えるなどの工夫をし、要望があれば見学や実習等の機会を設けられるよう各所と調整を行っている。	5	
1-2-② エンパワメントの重視	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
相談支援を進めるにあたっては、常に利用者のエンパワメントが図られるよう努めている。	5	支援者が課題を解決していくのではなく、「当事者自身がおかれた状況に気づき、問題を自覚し、自分の生活を組み立てたり、改善したりする力をつける」という姿勢で支援をしている。	5	
		自己決定をサポートできるよう、意思決定支援等の学習を進める。		
1-2-③ コミュニケーションに関する配慮	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
手話や点字、筆談、映像を利用するなど、その人に合った個別のコミュニケーション手段を検討し、それに基づく対応を行っている。	4	知的な障がいの方にはルビ付きの説明書や伝わりやすい表現でのコミュニケーションを実施している。精神障がいの方には状態を鑑みた丁寧な説明を行う等、障がい特性に応じたコミュニケーションが図れるよう意識している。	4	
		より細やかな配慮ができるよう、コミュニケーションに関する研鑽を深めていく。		
一度の面接では意思確認等が困難であるような、著しく意思伝達に制限のある人の場合、日常的な関わりを通じて、その人固有のコミュニケーション手段やサインの発見と確認を心がけている。	5	精神障がいの方については、面談時の状況により聞き取りが困難な場合もあるため、対話の回数を重ねながら状況の把握に努めている。知的障がい・発達障がいの方については、オウム返しをしたり、質問者の期待に沿うような答えをしたり、質問者に誘導される可能性もあるため、感情や意思表出の特性を捉え、サインを見逃さないように努めている。	5	
		より細やかな配慮ができるよう、コミュニケーションに関する研鑽を深めていく。		
意思伝達に制限のある人の場合、他機関職員との連携や、本人が信頼できる知人、代弁者、手話通訳者等を受け入れるなど、コミュニケーションを行う環境に配慮して、その人の意思や希望をできるだけ正しく理解しようと努力している。	4	状況や当事者の要望に応じて、他機関職員や後見人等にも同席してもらうなど、環境整備に努めている。	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

資料3-1

事業所名		福島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-2-④ 権利擁護		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
+	相談支援を進めるにあたっては、常に利用者の立場を擁護し、ニーズ表明を支援・代弁することにより、問題解決力や様々な支援を活用する力を高めているけるような支援に努めている。	5	生活を整えるのではなく、その人が真に望んでいる暮らしができるよう常に意識している。利用者の意見は時に関係する支援者の意見に埋没しそうなこともあるが、常に利用者寄り、利用者の思いを関係者に伝えるよう努めた。	5	
	人権侵害が発生した場合にはその解決のために積極的に対処している。	4	主訴以外の部分からも不当な差別や合理的配慮の不提供に気づき、関係機関と連携を図りながら対処していくよう努めた。障害者差別解消法の周知・啓発に努めた。 平成28年4月より障害者差別解消法の相談窓口としての役割が追加されるため、主訴以外の部分からも不当な差別に気づくセンスを磨き、関係機関と連携を図りながら対処していくよう努める。また、「不当な差別」「合理的配慮」についての啓発に努める。	4	引き続き人権侵害を見逃さないように努める。
	虐待が危惧される場合は、関係行政機関と連携し適切な対応を行っている。	4	相談の中から虐待が危惧されることを見つけ出し、区保健福祉センター虐待担当等と連携・協働で対応している。	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名	福島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
		平成28年度		平成29年度
1-3 地域・他機関との交流・連携	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
1-3-① 他関係機関との連携				
担当区域の地域自立支援協議会に積極的に参加し、様々な取組みを提案するなど、協議会の活性化に努めている。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災」「学齢期の保護者へ情報提供」「障害者差別解消法の周知」を3つの柱とし、それぞれ学習会や啓発活動などを行なった。 ・7区(大正区・此花区・港区・西区・西成区・福島区)地域自立支援協議会合同で、就労系・児童系・相談支援事業所向けの研修会「より良いサポートの共有化に向けて」を行なった。 部会のあり方については引き続き検討していく。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・区センター主催「相談支援事業所連絡会」を、6月より自立支援協議会部会とするなど、活性化に努めた。 ・当センターの人事異動があり、区センターとしての役割を十分に果たせていたか反省すべき点があった。
協働する関係機関や関係団体等が増え、連携が深まっている。	4	従前から関わっている機関とは、情報を共有したり一緒に訪問したりするなど協働・協力ができるようになっている。区センターが認知されるに従って、新たな機関と連携できるようになってきている。 区内にとどまらず、区外についても領域を広げ、支援に厚みを持てるよう努めたい。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な相談支援体制の充実事業」のモデル区であったため、他機関との連携を意識しながら業務している。 ・高齢・障がい共通のテーマに関して、地域包括支援センターと共催で連絡会をするなどの連携をしている。
1-3-② 地域の障がい者の状況把握	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細、下段:今後の取り組み)	評価点	評価の詳細(上段:自己評価の詳細の変更点、下段:今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み)
相談者に限らず、地域の障がい者を取り巻く状況や課題はおおむね把握できている。	4	保健福祉センターや自立支援サービス事業者だけでなく、地域住民との対話を通じて状況や課題を把握するように努めている。 今後も密に連携を取り、随時、情報を更新していけるよう努めたい。	4	
障がい者支援機関のみならず地域の福祉・労働・教育・保健医療機関と定期的な会議を開催する等によって、ニーズの把握に努めている。	4	会議に参加するだけでなく、区内の小学校に障がいに関する相談窓口のポスターを設置してもらうよう働きかけた。 十分とは言いきれないので、今後も情報収集に努めたい。	4	『「発達に課題のある子ども」の支援者 連続学習会』に出席し、保育士や学校教諭と意見交換等している。
アウトリーチ活動に取り組むことにより、ニーズの把握に努めている。	4	高齢・障がい児/者 福祉なんでも相談会「ちえのわ」を月に1回開催している他、イベント等で相談会を行なっている。 障がい児については、いまだ十分ではないため区内の他機関との連携を深めたい。	4	

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

資料3-1

事業所名		福島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
1-3-③ 地域の社会資源の把握		評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取り組み）	評価点	評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取り組みの改善点及び次年度の取り組み）
a	サービス提供事業所や専門相談機関を把握している。	4	日中活動系事業所部会で区内の事業所ガイドブックを作成した。また、相談支援事業所連絡会でも区内の相談支援事業所ガイドブックを作成中。	4	常に最新の情報を把握するように努めている。
			サービス事業所との連携・情報共有・地域の課題の把握・解決等さらにネットワークを構築していくためにも事業所部会の立ち上げ等も考えていく。		
b	学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。	3	特別支援学校から卒後の進路についての相談が入るようになってきている。また、就労を目標としている当事者に対しては、障がい者就業・生活支援センターやハローワークの紹介等も行っている。	3	自立支援協会を通じて、区内の小中学校に区センターの周知（ポスター掲示、校長会での説明）をしている。その結果、相談につながったケースもある。
			学校園・ハローワークなど関連機関の情報を収集している。		
c	民生委員、地域ネットワーク委員、ボランティア団体などを把握している。	3	社会福祉協議会などから情報を得ており、必要な時に協力していただけるようにしている。	4	<ul style="list-style-type: none"> 区保健福祉センターや社会福祉協議会などと連携し、必要な時に協力していただけるようにしている。 地域福祉コーディネーター連絡会に講師として招かれ、障がい者の理解や支援についての研修を行なった。「知的障がいや発達障がいの方の言動について理解できた」という声をいただくことができた。
			十分に連携し協働するには至っていないため、今後に向けて関係作りを進めていく。		
d	駅や図書館、スポーツセンターなどの公共施設や、金融機関や飲食店、商店などの民間施設、障がい者用トイレやエレベーター等の設備の情報を収集している。	3	公共機関や公共施設、大型店舗等については状況の把握が進んでいるが、民間の一般店舗などについては十分な把握は出来ていない。	3	
			さらに情報収集を重ね、細やかに情報提供できるようバリアフリーマップなどの作成等にも努める。		

事業所名	福島区障がい者相談支援センター		変更又は改善内容	
<p>1-3-④ 社会資源の改善・開発に向けた取組み</p> <p>既存のサービスの活用だけでなく、既存の社会資源の「改善」や新たな社会資源の「開発」に向けて取り組んだ。</p>	<p>評価点</p> <p>4</p>	<p>評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）</p> <p>ヘルパー事業所へ向けて、障がいに関する理解やコミュニケーションに関する勉強会を行なった。</p> <p>「開発」に関しては、至っていないため当事者の声に耳を傾け、自立支援協議会などでも検討を進めたい。</p>	<p>評価点</p> <p>4</p>	<p>評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）</p> <p>区内事業所に向けて合理的配慮についての勉強会を行い、よりよい支援ができるように働きかけた。</p>
<p>1-3-⑤ 支援困難事例への積極的な対応</p> <p>多問題を抱えた事例や、問題が長期にわたって継続し、解決の糸口を見つけないことが困難な事例など支援困難事例への対応を積極的に行っている。</p>	<p>評価点</p> <p>4</p>	<p>評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）</p> <p>支援困難なケースに継続的に関わっている。また、他の機関の事例でも、協力できることを探し、一緒に考えていく姿勢をとっている。</p>	<p>評価点</p> <p>4</p>	<p>評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）</p>
<p>1-3-⑥ 地域住民への周知・啓発的活動の実施</p> <p>障がい者相談支援センターは、自らの役割について地域住民に対して積極的な周知を図っている。</p> <p>地域住民との交流や講演会の開催等を通じて、障がい者が地域で共に生きていく意義をはじめ、啓発的活動に積極的に取り組んでいる。</p>	<p>評価点</p> <p>4</p> <p>3</p>	<p>評価の詳細（上段：自己評価の詳細、下段：今後の取組み）</p> <p>地域のイベントに参加して周知活動を行なっている。</p> <p>関係機関にも協力してもらいながら、今後も同様に機会を逃さないよう周知活動を続けていく。</p> <p>発達障がい親の会「チャオネット」 銭湯体験に参加。障がいのある子どもが公共マナーを経験し、地域住民が障がいについて理解・協力してもらえるような取組みに参加している。</p> <p>地域住民との交流の機会を積極的に利用する。</p>	<p>評価点</p> <p>4</p> <p>3</p>	<p>評価の詳細（上段：自己評価の詳細の変更点、下段：今後の取組みの改善点及び次年度の取組み）</p> <p>区社協や医師会等主催のイベントに参加し、周知活動を行なっている。</p>

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

資料3-1

事業所名	福島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
<p>1-4 その他の取組み</p>	<p style="text-align: center;">平成28年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託相談で関わっていたケースが、福祉サービスを利用し始めるにあたって計画相談を利用することになった。区センターはどの計画相談事業者に決定したのか知ることができず、計画相談事業者は委託相談が関わっていた経緯を知らなかったため、計画相談事業者が一から情報収集しているということが複数あった。そのため、計画相談事業者選定会議を開催し、委託相談と計画相談が切れ目なく支援できるようにした。また、相談支援事業所連絡会を立ち上げることによって、計画相談と委託相談が役割分担し、区内の相談支援が全体で一つのものとして機能するように働きかけた。 ・障がい年金連絡会への参加 障がい年金については、申請が困難なケースもある。 社会保険労務士や相談支援専門員などが集まって事例の発表や情報交換を行なう勉強会に参加し、困難な方にも対応できるように努めている。 ・地域の防災訓練に参加 	<p style="text-align: center;">平成29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある計画相談事業所の相談支援専門員が突然退職となり、当該事業所だけですべてのケースを継続して支援するのは人員的に困難とのことだったので、他事業所に変更できるよう働きかけを行う。 ・計画相談事業所が閉鎖することになったため、事業所の変更や引継ぎができるよう働きかけを行う。 ・障がい年金連絡会への参加 ・区社協職員研修会「見守り活動における障がいの理解について」講師

区障がい者相談支援センターの自己評価シート

事業所名		福島区障がい者相談支援センター								変更又は改善内容									
2 日々の相談支援業務		平成28年度								平成29年度									
2-1 継続支援対象者数		平成28年度								平成29年度									
①利用登録者(継続支援対象者)の人数(指定相談支援を除く)		障がい種別	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度未登録者数	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度未登録者数	障がい種別	前年度末の登録者数	当年度新規登録者数	当年度登録解除者数	当年度未登録者数				
身体障がい	視 覚	視 覚	1	0	0	1	1	2	0	3	聴 覚	聴 覚	0	0	0	0	0	0	
		聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	
		肢 体	2	0	0	2	2	3	0	5		内 部	肢 体	0	0	0	0	0	0
		内 部	0	0	0	0	0	0	0	0			計	0	0	0	0	0	0
		計	3	0	0	3	3	5	0	8			難 病	3	0	0	0	0	0
	難 病	3	0	0	3	3	0	0	3	知的障がい	19	2	0	21	21	6	0	27	
	知的障がい	19	2	0	21	21	6	0	27	精神障がい	17	2	1	18	18	11	0	29	
	精神障がい	17	2	1	18	18	11	0	29	障がい児	0	1	0	1	1	0	0	1	
	障がい児	0	1	0	1	1	0	0	1	重複障がい	5	0	0	5	1	0	0	6	
	重複障がい	5	0	0	5	5	1	0	6	その他	1	1	0	2	2	0	0	4	
その他	1	1	0	2	2	0	0	4	合 計	48	6	1	53	53	25	0	78		
②指定特定相談支援を実施した実人数		身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計	身体障がい	知的障がい	精神障がい	その他	計			
		2人	28人	6人	1人	37人	2人	26人	6人	0人	34人	2人	26人	6人	0人	34人			
2-2 相談支援内容		平成28年度								平成29年度									
①延べ相談件数		福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計	福祉サービス	社会資源	社会生活力	ピアカン	権利擁護	専門機関	その他	計		
身体障がい	視 覚	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	8	0	1	0	0	0	2	11		
		それ以外	0	2	0	0	0	0	0	2	5	3	2	0	0	0	10		
		利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		それ以外	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	3		
		計	1	0	0	0	0	0	0	1	30	6	1	0	0	0	7	44	
	聴 覚	利用登録者	2	2	0	0	0	0	1	5	4	11	0	0	0	0	2	17	
		それ以外	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
		計	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
	肢 体	利用登録者	1	0	0	0	0	0	0	1	30	6	1	0	0	0	7	44	
		それ以外	2	2	0	0	0	0	1	5	4	11	0	0	0	0	2	17	
計		0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
内 部	利用登録者	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
	それ以外	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	1	0	0	0	0	1	0	2	38	6	2	0	0	0	9	55		
計	利用登録者	2	5	0	0	0	0	3	10	11	15	2	0	0	2	30			
	それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
難 病	利用登録者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
	それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
知的障がい	利用登録者	34	44	16	0	13	2	36	145	16	15	30	0	4	2	42	109		
	それ以外	10	9	2	0	8	1	4	34	8	9	2	0	4	0	6	29		
	計	34	17	28	2	1	1	55	138	69	66	49	0	1	2	83	270		
精神障がい	利用登録者	0	7	0	0	2	0	6	15	27	17	8	0	3	0	15	70		
	それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1		
	計	0	1	0	0	0	0	0	1	3	3	1	0	0	0	0	7		
障がい児	利用登録者	3	3	7	0	0	0	14	27	9	1	0	0	0	1	28	39		
	それ以外	4	2	0	0	0	1	1	8	3	3	1	0	0	0	4	11		
	計	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	2	4		
重複障がい	利用登録者	1	3	1	0	1	1	1	8	7	5	0	0	0	0	6	18		
	それ以外	73	64	51	2	14	4	106	314	134	88	82	0	5	165	479			
	計	17	27	3	0	11	3	15	76	59	52	14	0	7	0	33	165		
その他	利用登録者	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	2	4		
	それ以外	1	3	1	0	1	1	1	8	7	5	0	0	0	0	6	18		
	計	73	64	51	2	14	4	106	314	134	88	82	0	5	165	479			
合計	利用登録者	17	27	3	0	11	3	15	76	59	52	14	0	7	0	33	165		
	それ以外	90	91	54	2	25	7	121	390	193	140	96	0	12	5	198	644		
	総計	90	91	54	2	25	7	121	390	193	140	96	0	12	5	198	644		
②相談の実施方法		電話相談	来所相談	訪問相談	その他	合計	電話相談	来所相談	訪問相談	その他	合計	電話相談	来所相談	訪問相談	その他	合計			
		252件	64件	20件	54件	390件	474件	51件	40件	79件	644件	474件	51件	40件	79件	644件			

事業所名	福島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
<p>2-3 日々の相談件数の分析</p>	<p style="text-align: center;">平成28年度</p> <p>全体の件数は前年比 約70%となっている。知的障がい・精神障がいについて、単発が減少。カウント方法を統一したことが要因だと考えられる。 「精神障がいの登録利用者」も減少している。体調不良や入院等に係る支援が比較的少なかったことや、計画相談を利用しはじめたことなどが大きな要因と思われる。</p> <p>全体の件数が減る中で、相談ルートの「福祉サービス事業所」や「その他の福祉サービス事業所」の件数や、助言・指導の件数は増加している。助言・指導の件数は、平成27年度は30件、平成28年度は67件。計画相談と委託相談の役割分担をすることによって、後方支援業務が増えてきたためと思われる。</p>	<p style="text-align: center;">平成29年度</p> <p>総件数644件で、前年比165%となっている。精神障がいからの相談が340件で、相談件数全体の5割ほど(昨年度の2倍)。次いで知的障がい138件(約20%)となっている。 相談ルートでは、本人からが最も多く、次いで「福祉サービス事業所」や「その他の福祉サービス事業所」になっている。 助言・指導の件数は、73件。</p> <p>今年度は、計画相談事業者に対する相談や、後方支援が多くあった。「担当の相談員が話をしっかり聞いてくれない」「自分の希望とは違うサービスを提示された」といった不満に対する支援、相談員が突然退職したことによる他事業所への変更支援、事業所が閉鎖することによる他事業所への変更支援などを行った。相談支援事業所の不足に加え、相談支援専門員の資質を課題に感じる年であった。</p> <p>医療機関との連携について、障がいのサービスについての理解が十分でないために利用者が混乱してしまうケースがあった。また、精神科病院からの退院では、地域で生活することに対して病院側と調整していくことに苦慮した。</p>
<p>3 区における地域課題について</p>	<p style="text-align: center;">平成28年度</p>	<p style="text-align: center;">平成29年度</p>
<p>区における全般的な課題についての現状認識及びその解決・改善に向けた提案・提言など</p>	<p>【福祉サービス従業者の不足】 特にヘルパー事業所は、ヘルパーが不足し、時間・サービス量が利用者の希望通りにならない場合がある。</p> <p>【計画相談】 ・認知度が低く、訪問や他機関と連絡する際に支障がある。 ・自立支援サービスの利用者は、平成29年2月現在で662名。計画相談の利用者は55.1%、障がい児相談支援は78.9%。 残り243名が相談支援を利用していない。区内計画相談事業所は6事業所となっているが、受け入れ可能な人数は少なくなっている。相談支援事業者の質・量の確保が課題である。</p> <p>【地域の変化】 区内にタワーマンションなど大型な集合住居が複数建設されており、新たな課題（転居してきた中には潜在的に障がい者がいる。以前からの住民とつながりが無い。防災など）が生じることが予想される。</p>	<p>【計画相談】 平成30年2月末現在、障がい福祉サービス利用者 453名（計画相談支援受給者 263名 58.1%）、障がい児通所支援受給者 234名（障がい児相談支援受給者 199名 85.0%）。190名が計画相談を利用していない状態。事業所の新規受入れ可能数は少なく、事業所も減少しているため、他区の事業所に依頼するケースが増えてきている。平成30年4月の法改正より相談支援専門員1人当たりの取扱い件数が設定されることもあり、更に厳しい状況になることが予想される。担当の相談支援専門員に対する相談も多くなっていることから、資質の向上も課題となっている。</p> <p>【防災】 平成28年度、自立支援協議会で防災研修を行なったが、日中の事業所で災害が起こった場合の研修であった。災害の種類だけでなく、時間帯や場所など、様々な場合を想定しておく必要がある。</p>

事業所名		福島区障がい者相談支援センター	変更又は改善内容
4 自己評価を終えて			
		平成28年度	平成29年度
4-1 区地域自立支援協議会での報告			
	報告日	平成29年5月18日	平成30年7月12日
	出席者からの意見		
	0 相談支援事業所の概要		
	1 事業運営全般	<p>・選定会議を開催することで委託相談と計画相談の連携ができるようになったとのことだったが、以前はどのように計画相談を決めていたのか。 →以前は、区保健福祉センターが計画相談事業所に振り分けており、委託で関わっていたケースでも区センターが計画相談事業所がどこになったか知ることができなかった。</p>	<p>地域住民や行政に向けて更なる周知をするために、広報誌の活用などの多様な周知方法を検討して行った方がよい。</p>
2 日々の相談支援業務			<p>相談件数が増加しているが、要因は何か →実人数が増えたこと、他機関と密に連携をしたことなどが挙げられる。</p>
	3 区における地域課題について	<p>・計画相談支援利用者が55.1%（平成29年2月末現在）ということだが、他区の相談支援事業所を利用している方も含んでいるか。 →含まれている。</p>	<p>計画相談事業者が増えない中、真に必要な方に計画相談支援が利用できるよう、考えていってもらいたい。</p>
4-2 一連の自己評価のプロセスを終えて		平成28年度	平成29年度
		<p>・昨年に引き続き、年度の早い時期に自己評価できたため、平成29年度の事業運営に反映させやすい。 ・自立支援協議会の部会について、連動させて活動してきた。ただ、区センターが部会活動の企画や運営をしている状況のため、今後はそれぞれの部会が主体的に活動できるように促して行きたい。 ・他区の自己評価プレゼンテーションを見学する機会があるとよい。</p>	<p>自立支援協議会の構成員が変化したことや当センターの人事異動などがあり、協議会での区センターの役割を十分に果たせていたか反省すべき点が多かったように感じる。 平成30年度より基幹相談支援センターとなるため、各機関と協調して協議会が活性化するよう更なる努力をしていきたい。</p>